

The TENDAI journal

令和7(2025)年8月1日 金曜日
(毎月1日発行) 1部80円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 坂本 圭司
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp



広報天台

比叡山宗教サミット38周年 「世界平和祈りの集い」を開催



平和を祈る教宗派の代表ら (令和6年8月4日)

比叡山宗教サミット38周年「世界平和祈りの集い」が8月4日13時より、比叡山上で開催される。戦後80年を迎えた今年は、ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の代表委員を務める田中熙巳さんを招いた講演会を開く。そして国内から平和を希求して集う約450名の宗教者らが戦争犠牲者を追悼し、世界平和を願う祈りを捧げる。

比叡山宗教サミット「世界平和祈りの集い」は、昭和62年(1987)に開催されて以来、毎年宗教宗派を超えて宗教者が比叡山に集い、世界の恒久平和実現のために協働することを確認し、平和を希求する祈りを捧げてきた。

ここ近年の天候不順による影響を考慮し、2年前から屋内外での2部制へと移行。本年も延暦寺会館で13時から「平和の式典」の開催式を行う。

太平洋戦争終戦から80年を迎え昨年ノーベル平和賞を受賞した日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の田中熙巳代表委員を招き「核兵器も戦争もない人間社会を」と題した講演を行っていた。

またSDGsの観点から記念品制作費用相当額の浄財を日本ユニセフ協会に寄託する。

続いて、会場を屋外の一

隅を照らす会館前「祈りの広場」に移し15時20分から「平和の祈り」を挙行する。初回到採択された比叡山メッセージを朗読して比叡山宗教サミットの祈りの精神を確認した後、平和の鐘が撞かれ、参加者全員で平和を願う祈りを捧げる。

続いて主催者を代表し、藤光賢天台座主殿下が「お言葉」を述べられ、海外から寄せられた平和のメッセージが披露される。

なお屋内の「平和の式典」を13時より、屋外の「平和の祈り」を15時20分よりそれぞれ動画配信サイトYouTubeでライブ配信する。プログラムの詳細は左記の通りです。

令和7年8月4日(月)13:00開式

平和の式典(屋内)

13:00	開式
13:05	平和を語る(田中熙巳氏講演)
14:20	ユニセフ支援金寄託式

平和の祈り(屋外)

15:20	比叡山メッセージ朗読
15:30	平和の鐘・平和の祈り
15:35	海外からの平和のメッセージ披露
15:50	閉式

詳細は
天台宗公式ホームページ
<https://www.tendai.or.jp>

動画配信サイトYouTubeにて
同時配信 配信時間/13:00~

特設サイトへは
こちらから



極微

こくみ

太平洋戦争の終戦から80年を迎えた今年は、各地で慰霊法要が営まれている。天台宗でも8月1日

に戦後80年戦没者慰霊並びに世界平和祈願法要を比叡山延暦寺阿弥陀堂で奉修し、続く4日には比叡山宗教サミット38周年「世界平和祈りの集い」が比叡山上で開かれる▼「二発の原子爆弾は私の身内5人を無残な姿に変え一挙に命を奪いました。(中略)たとえ戦争といえどもこんな殺し方、こんな傷つけ方をしてはいけない」と私はそのとき、強く感じたものであります。昨年12月のノーベル平和賞授賞式で日本被団協代表委員の田中熙巳さんが演説した被爆体験は、核兵器がいかに非人道的なものであるかを世界の人びとに印象づけた▼自国の安全保障上の利益を優先した政治的意思決定や、大国間の競争激化から軍縮交渉が難航し、核兵器廃絶を遠ざけている。中には核抑止論を唱える人も多く、廃絶の必要性への理解が進まないなどの背景がある▼70年近く核廃絶を訴え、被爆証言を続けてきた日本被団協がノーベル平和賞を授賞したことで、市民社会から廃絶を働きかける世論喚起に繋がることが期待される▼今回の宗教サミットでは、田中さんを講師に招く。演説で田中さんは「世界中のみなさんと共に話し合い、求めていたきたい」と呼びかけた。信徒らの精神的支柱であり、道徳的規範を示す宗教者の前で何を語られるのか。田中さんの言葉に耳を傾けたい。